

第5章 将来ビジョン

第1節 将来ビジョン

ゼロカーボンシティ実現に向けて取り組むに当たり、“2050年に本市が目指すゼロカーボンシティの姿”を将来ビジョンとして作成し、市民・事業者と共有するとともに、共通の目標として協働で取組を促進していくものです。

令和32年（2050年）におけるゼロカーボンに資する技術革新や社会情勢に関して、各省庁が整理した将来像を参考にするとともに、市民アンケートの結果をはじめ、「第2次袋井市総合計画」や関連計画等に基づき、将来ビジョンを設定しました。

将来ビジョン設定のポイント

【暮らしの視点】

- 「第2次袋井市総合計画」では、本市の地域資源を磨き高めることで未来へ力強く踏み出し、“市民力なら袋井市”と言われるまちを目指すとしており、一人ひとりが“市民力”を發揮して、ゼロカーボンシティの実現に貢献し、取組を通じて互いの暮らしを快適に変えていくことができる社会を目指します。
- 「第5期科学技術基本計画（内閣府）」は、IoTで全ての人とモノがつながることで新たな価値を生み出し、経済発展と社会的課題の解決を図るとしています。さらに「第1次袋井市デジタル推進計画」を踏まえ、日常生活にデジタル技術が普及し、誰もが使いこなすことによって、ゼロカーボンライフの実現に貢献することを目指します。

【産業の視点】

- 「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略（経済産業省）」では、積極的に温暖化対策を行うことが、産業構造や社会経済の変革をもたらし、次なる大きな成長につながるとしています。できる限り早期に産業をゼロカーボン化することで、企業価値・企業競争力の強化につなげるとともに、市内への企業立地・投資の魅力を高め、地域産業の競争力向上の機会として、AI・IoT等の情報技術をはじめ先進技術を採用することにより、生産性の向上とゼロカーボンの実現を目指します。

【まちづくりの視点】

- 「第2次袋井市総合計画」では、安心して暮らし続け、多様な自然環境を次世代へ継承する取組を推進することとしています。また、「袋井市地域公共交通計画」では、“公共交通が移動手段として選ばれるまち”を基本方針として掲げています。
- これらを踏まえ、円滑に移動できる交通ネットワークを構築するとともに、森林等の自然や農地を保全するとともに、公園等の身近な緑の整備・維持管理を通じて、誰もが快適で暮らしやすいまちを目指します。また、エネルギー自給率を高めることで災害等に対するレジリエンス強化を図ります。

暮らし 先進技術を使いこなし “快適で楽しい” ゼロカーボンライフの実現

デジタルインフラが普及し、暮らしにおいて誰もが AI・IoT を活用して家電やエネルギーをスマートに活用しています。家庭には省エネルギーを追求した家電製品が普及しており、AI・IoT、ビッグデータの活用を通じた家電同士の連携による機器の効率的な利用が定着しています。家庭におけるエネルギーの使用状況をいつでも分かりやすく把握でき、かつ手軽に操作できることで、子どもたちも楽しく省エネルギー活動に参加しています。

また、広く太陽光発電設備や電気自動車の所有が進み、市民も電力の生産者を兼ねることにより、市内の発電量と使用量のピークに対応した需給調整の役割を担うなど、“市民力”を結集してゼロカーボンシティの実現を果たしています。

さらに、ZEHをはじめ住宅の省エネルギー化により、二酸化炭素排出量の削減と同時に、断熱性能の向上等により快適性と家族の健康維持に役立っています。家庭のエネルギーマネジメントサービスと高齢家族の見守りサービスを併せて行うことで、安心な暮らしと両立し、“あったらうれしい”に答えるサービスで地域活性にも貢献しています。

今後、テレワークやフレックスタイム制の導入がさらに進むことで、マイカー通勤等に伴う二酸化炭素排出量を抑制するとともに、ワークライフバランスが確保できる多様な働き方が選択できる社会になっています。また、シェアリングエコノミー（カーシェアリング、シェアサイクル、レンタルサービス、フリーマーケット等）を通じて、資源を有効に使用するとともに、食品ロスの削減や石油由来のプラスチックごみのゼロエミッション化が定着しています。

産業

“チャレンジ・ゼロカーボン” が合言葉！ゼロカーボンによるシビックプライド^{※1}の形成

機械産業や食料品製造業等のモノづくりからサービス業まで、本市の産業において、ゼロカーボン実現の取組に挑戦する“チャレンジ・ゼロカーボン”の精神が加速しています。大企業だけではなく、中小企業や金融機関、大学等の研究機関まで広く参画するプラットフォームにおいて、ネットワークを形成し、各事業者が掲げるゼロカーボンの目標達成に向けて協力し、相乗効果を発揮しています。また、ゼロカーボンに取り組む事業者の商品やサービスを、市民が積極的に選択し、その活動を応援する気運が高まり、事業者と市民が一体となって、ゼロカーボンシティ実現を推進しています。

AI・IoT を活用した生産プロセスの改善や高効率設備への更新だけではなく、再生可能エネルギーや水素、アンモニアといった次世代エネルギーの活用が進むほか、二酸化炭素の分離・固定技術等の先進技術の開発と運用の拡大、新事業の創出を通じて、国内外における本市の地域産業の競争力強化が図られています。

さらに、基幹産業である農業においては、ICT を活用した“スマート農業”を通じて効率化を図るとともに、センシング技術^{※2}や AI の組み合わせによって品質と収量を向上するなど、農業のゼロカーボン実現だけではなく、袋井ブランドの特産品の生産に貢献しています。

※1 シビックプライド…都市や地域に対する市民の誇り、愛着

※2 センシング技術

…センサを使用して情報を取得し、付加価値の高い情報に変換する技術。温度・音量・明るさ・耐久性等の要素を定量的データとして収集し、応用する技術全般を含む

まちづくり 緑に囲まれたみんなが心地よく元気なまち

まちなかに緑が溢れ心地よい風が吹いています。小笠山丘陵地や宇刈丘陵地等の森林から、太田川や原野谷川等の河川、市街地周辺に広がる農地、公園、宅地の植栽、道路の街路樹、そして浅羽海岸に沿ったクロマツ林まで、水と緑のネットワークが形成され、日常生活に潤いを与えています。緑が増えることで、二酸化炭素の吸収や暑熱環境が改善されるほか、生物が移動・分散する経路が確保されるため、生物多様性の保全にもつながります。

コンパクト化が進んだ市街地では、歩行者にとって居心地が良く、歩きたくなるウォークアブル^{※1}な道路空間が整備され、健康で快適に歩いて暮らせるまちが実現しています。さらに、公共交通機関への乗り継ぎの改善や、MaaS^{※2}等の新たなモビリティサービスの推進等で利便性の向上と、スムーズな公共交通により誰もが移動しやすい環境が整っています。市内を走行する自動車も電気自動車や燃料電池車が主流になり、グリーンスローモビリティやパーソナルモビリティ等多様化しています。

市内の再生可能エネルギーの導入が進み、事業所や家庭を含め地域の再生可能エネルギーや蓄電池を活用したマイクログリッド^{※3}が構築されています。災害時においても、自立的なエネルギー供給による非常用電源の確保、家庭や事業者で所有する次世代自動車もエネルギーインフラとして活用されるなど、レジリエンスの強化が図られています。

自然と調和し、本市に暮らす全ての人々が安心して健康に過ごし、快適さと喜びを感じています。

※1 ウォークアブル

…歩きやすい、歩きたくなる、歩くのが楽しいという意味を持ち、歩行者中心のまちづくりコンセプトを示す

※2 MaaS (Mobility as a Service)

…地域住民や旅行者のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスのこと

※3 マイクログリッド

…限られたコミュニティの中で再生可能エネルギーで電気をつくり、電力供給を賄うこと（エネルギーの地産地消）のできるシステムのこと

Column 1 グリーンスローモビリティ、パーソナルモビリティ

● グリーンスローモビリティ

グリーンスローモビリティは、時速 20km 未満で公道を走ることができる電動車や、これを活用した移動サービスの総称です。

環境への負荷が少なく、狭い路地も通行が可能で、高齢者の移動手段や観光客の周遊に活用できる新たな移動手段として期待されています。



図 5-1 グリーンスローモビリティ走行の様子

● パーソナルモビリティ

市街地における近距離の移動を想定した電動のコンセプトカーを指します[※]。すでに広く普及している、ハンドル型電動車いす（シニアカー）や電動アシスト付き自転車、電動キックボード等、1～2名で使用し、電動で移動する手段も含まれます。

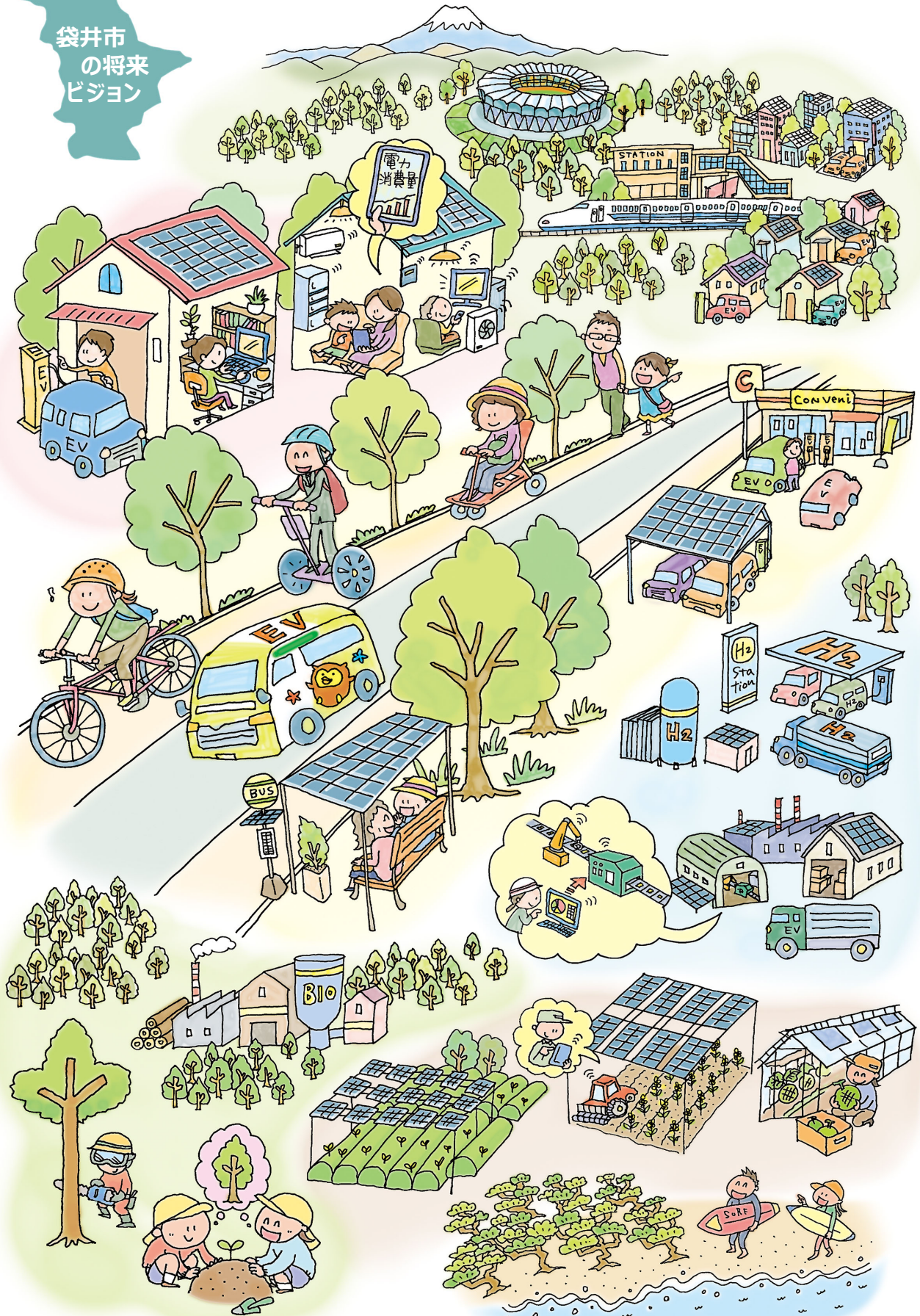
※産業技術総合研究所ホームページより引用



資料：日本電動モビリティ推進協会ホームページ

図 5-2 グリーンスローモビリティの例

袋井市の
将来
ビジョン



第2節 削減シナリオとロードマップ

(1) 削減シナリオ

中期目標及び長期目標の達成に向けた削減シナリオを作成しました。

令和 12 年度（2030 年度）を目標年度とする中期目標を達成するためには、徹底した省エネルギー化と、再生可能エネルギーの、より一層の導入推進が重要です。

また、長期目標においては、令和 12 年度（2030 年度）以降の取組を見据え、技術革新を図ることや最先端技術を受け入れる準備を行うことも必要です。

将来ビジョンに示したように、先進技術を使いこなし、便利さと豊かさが同居する“快適で楽しい”ゼロカーボンライフの実現と、環境保全と産業活性化が両立したゼロカーボンによるシビックプライドの形成、豊かな自然を活かしみんなが心地よく元気なまちの実現を目指し、取組を進めます。

なお、削減シナリオ及び次ページに示すロードマップは、令和 12 年度（2030 年度）を目標にしたものであるため、次期計画策定においては本計画の成果を適切に評価・総括し、令和 12 年度（2030 年度）の温室効果ガス排出量や経済・社会情勢を踏まえて更新を行います。

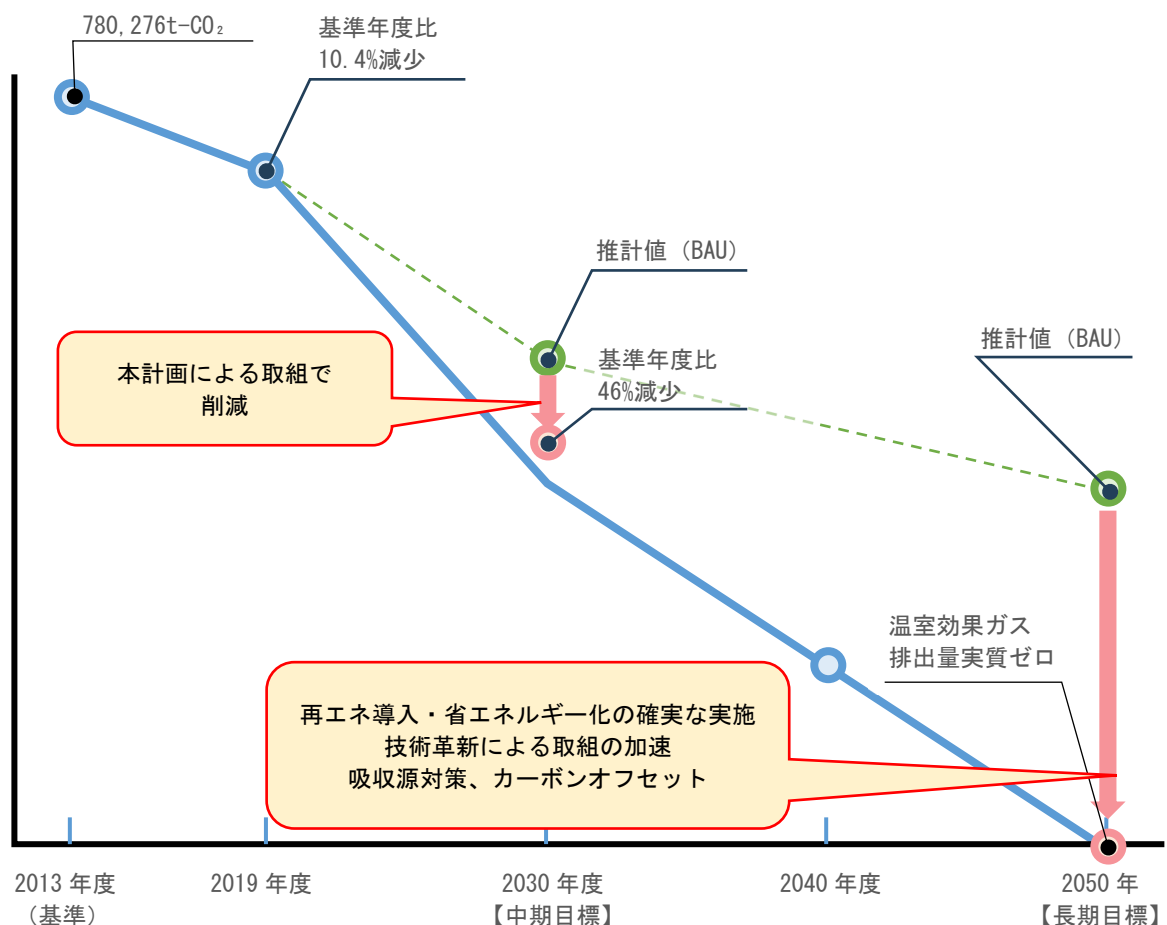


図 5-3 温室効果ガス排出量削減目標達成シナリオ

(2) ロードマップ

将来ビジョンの達成に向けて、中期目標及びさらにそれ以降の取組に関してロードマップを作成しました。

本計画においては令和12年度（2030年度）の中期目標の達成に向けて、第7章に示す緩和策の取組について推進します。

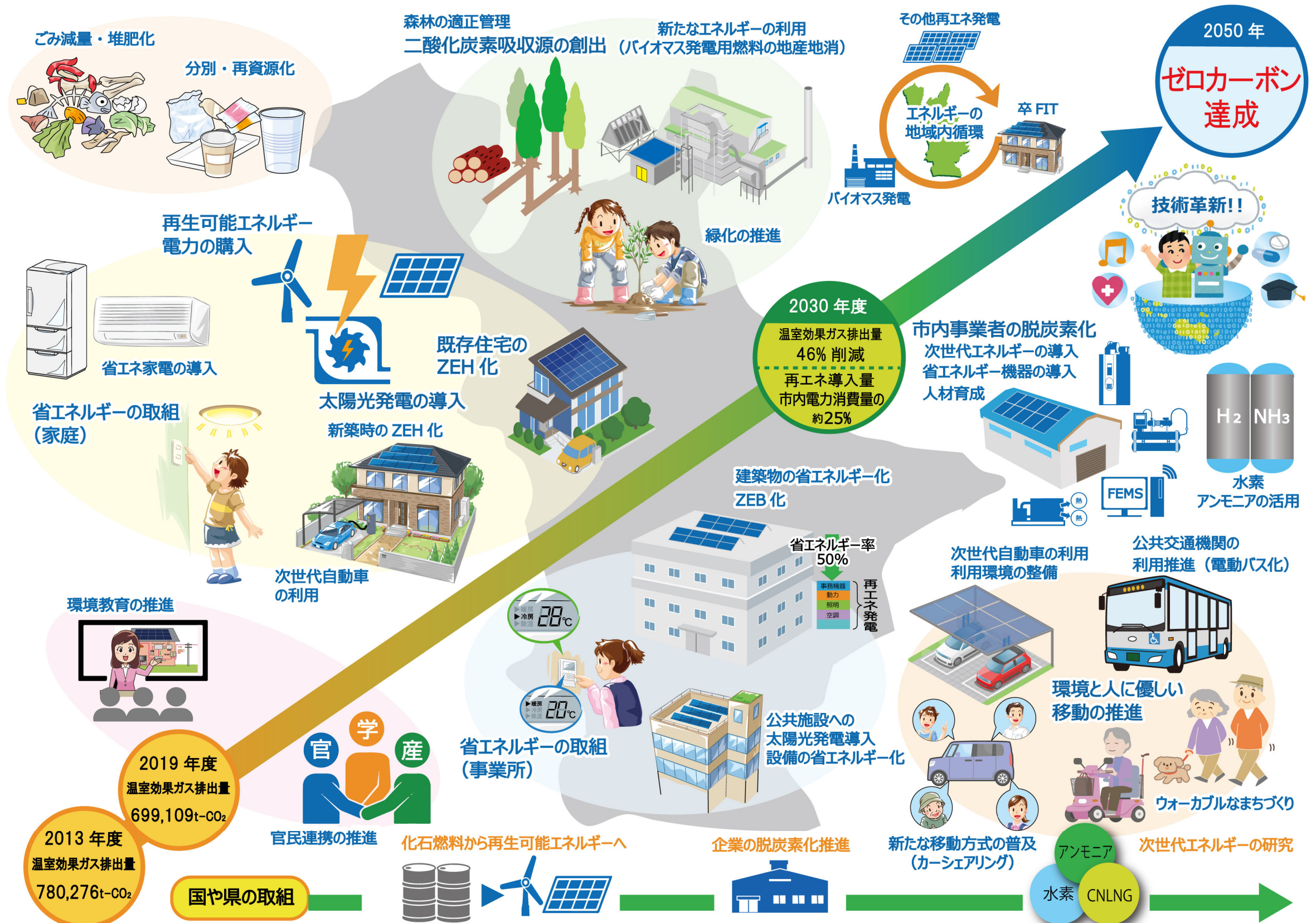


図 5-4 ゼロカーボンシティ実現に向けたロードマップイメージ